

新型コロナウイルス感染症 「5類感染症」へ移行、何が変わる？

健康 コラム



秋田厚生医療センター 感染防止対策室
看護主任 感染管理認定看護師 **佐藤 真理子**

新型コロナウイルス感染症は2023年5月8日より季節性インフルエンザなどの感染症と同じ類型となる「5類感染症」へと分類が変更されました。(表1)

表1.新型コロナウイルス感染症5類移行に伴う対応の変化

	5/7まで	5/8以降
感染症法上の分類	新型インフルエンザ等感染症(2類相当)	5類感染症
感染者の届出	全数	定点医療機関
入院勧告・就業制限	できる	できない
感染者の待機	原則7日間	個人判断・推奨5日間
濃厚接触者の待機	原則5日間	濃厚接触者を特定しない
医療費	公費負担	公費を段階的に縮小
外来医療	発熱外来で診療	幅広い医療機関で対応
緊急事態宣言	発令できる	発令できない

これによって変わるものは…**医療体制や法的措置**であり、**ウイルス**は変わりません。大きな節目となる5類への移行ですが、必ずしも良いことばかりではありません。5類感染症に移行すると、どのようなメリットやデメリットがあるのでしょうか。

1.感染時の自宅療養や濃厚接触時の待機が強制ではなくなる

【メリット】濃厚接触者は社会活動を継続できる
【デメリット】市中で感染する機会が増える可能性

これまで新型コロナウイルス陽性と診断された方は、7日間の自宅療養が必要となり、濃厚接触者も自宅待機が必要でした。5類感染症になると、自宅療養や待機を要請する法的根拠がなくなるため、濃厚接触者や無症状・軽症の感染者は必ずしも自宅療養が強制ではなくなります。濃厚接触者であれば勤務先の判断によっては出勤して社会活動を継続できるようになり、学校も無症状の濃厚接触者は必ずしも出席停止の必要はなくなりま



す。一方で、市中に感染者や濃厚接触者が増えることで感染が広がる可能性があります。濃厚接触者や感染者の方は、周囲に感染を広げないための対策や体調管理をこれまで以上にしっかりと行う必要があります。

2.公費負担でなくなる

【メリット】無駄な検査・治療が減る
【デメリット】受診を控え重症化する人が増える懸念
新型コロナウイルス感染症の治療薬は、例えばモルヌピラビル(商品名ラゲブリオ)という抗ウイルス薬は1回治療分で94,312円です。重症化リスクの高い患者さんには有効な薬ですが、必ずしも必要でない方への処方や、公費だからと自己中断し廃棄されることもありました。公費でなくなれば、必要性が高い検査や治療が優先的に行われ、適正化が起こるかもしれません。一方、デメリットとしては、罹患した際の自己負担が増えることです。検査費用も決して安くはないですし、10万円近い治療薬の3割負担してでも処方を希望する人は減るでしょう。そうすると、検査を受けず未診断のまま周囲に感染を広げてしまうことや、費用のために処方のためらい重症化する人が増えることが懸念されます。費用のために必要な医療が受けられない、ということにならないよう公費は段階的に縮小していく方針です。

【まとめ】

新型コロナウイルス感染症は5類移行後も疾患の特性は変わりません。これからも感染者や重症者は増減を繰り返すことになり、新たな変異株が出現し、再び大きな流行が起こる可能性もあります。5類への移行は大きな節目ではありますが、これで流行が終わるわけではなく、これからは感染対策やワクチン接種をしなくて良いわけでもありません。むしろ、これまででは感染症法によって維持されていたセーフティーネットがなくなっても犠牲者が増えないようにするためには、今まで以上に私たち一人一人の感染対策が求められます！